

上峰中学校の道徳教育のイメージ

「日々の生活の関わりこそが道徳教育」ですが、道徳科が「補充・深化・統合」という役割を果たすことで、より効果的な教育活動が行われると考えます。

教師・保護者の温かい関わり



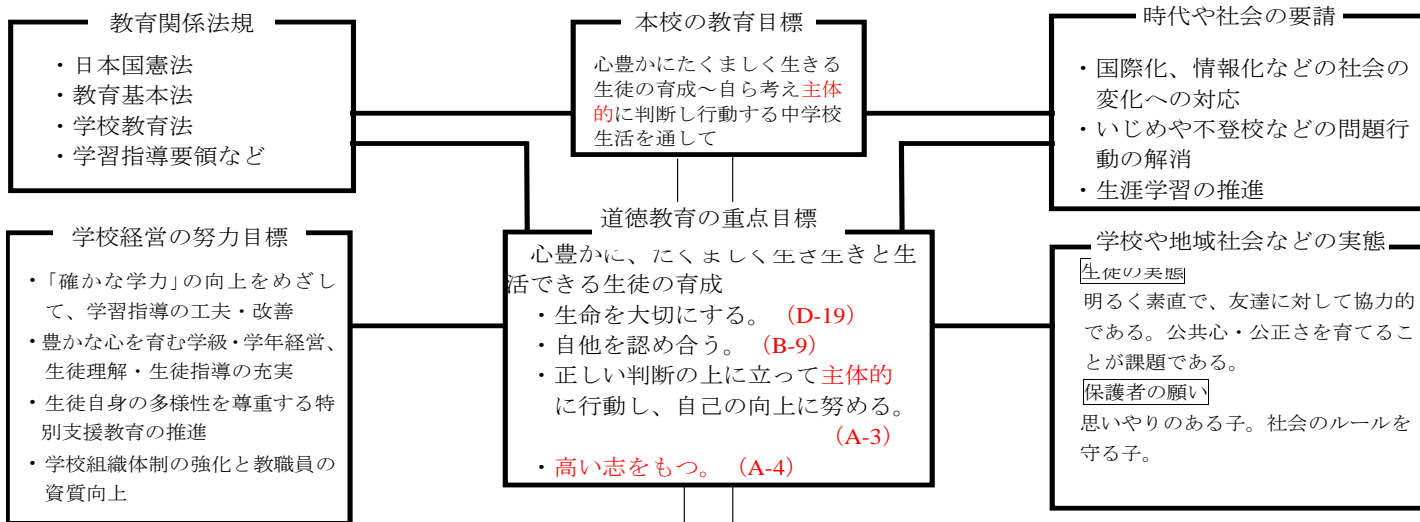
補充；学校の諸活動で考える機会を得られにくい道徳的価値などについて補う。
深化；道徳的価値の意義や、それと自己との関わりについて一層考えを深める。
統合；道徳的価値に関わる諸事象を、捉えなおしたり発展させたりして、子どもの新たな感じ方や考え方を生み出す。

学級経営

家庭・地域・社会との連携、豊かな学習環境・校内環境の整備

ツバキは、上峰町の町木であり、上峰中学校の道徳科評価における、3つの視点の合言葉です。

ツ；道徳的諸価値の理解 バ；多面的多角的な思考 キ；道徳的な判断力、心情、実践意欲・態度の育成



各学年の指導の重点		
1 年	2 年	3 年
<p>・衝動的になりやすい自分自身の在りように目を向け、自立できるよう、望ましい生活習慣を身につける。</p> <p>(A-2) ・他の人の立場を尊重しながら思いやりの心をもって接する。</p> <p>(B-6) ・自分の所属する集団の在り方を十分理解し、自己の役割と責任を自覚するとともに協力し合って集団生活の向上に努める。</p> <p>(C-)</p> <p>2・3年生のB-8「友情・信頼」の項目を変更しました</p>	<p>・自らを振り返って正すべきところは正しつづ、絶えず自己を高めようとする。</p> <p>(A-3)</p> <p>・自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなもの見方や考え方があつことを理解しながら他に学ぶこと。(B-9)</p> <p>・不正を憎み、不正な言動を断固として否定することにより、差別や偏見のないよりよい社会の実現に尽くすように努める。</p> <p>(C-11)</p>	<p>・絶えず理想を求め、より高い目標を設定し、その達成を目指して着実に努力する。</p> <p>(A-4)</p> <p>・郷土の伝統と文化を大切にし、地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し、進んで郷土の発展に努める。(C-16)</p> <p>・世界の中の日本人としての自覚をもち、外国の人々や異文化に対する理解と尊敬の念を重視し、世界の平和と人類の幸福に貢献するように努める。(D-18)</p>

道徳科の指導方針

- 互いの考えを尊重し、伝え合い、人間としての生き方について、共に深く考え合う。
- ・日常生活における道徳教育と内容、時期を関連付け、道徳性を育てる。
 - ・年間指導計画に基づき、生徒の心身の発達や個に応じた適切な指導を行う。
 - ・生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を見取り、積極的に励ます個人内評価を行う。
 - ・保護者や地域に授業を公開し、意見を交流するなどして、地域と共に子どもを育てる。
 - ・ティームティーチングや役割演技、ICT機器などの活用、保護者や地域の人材の活用など創意工夫ある指導をする。
 - ・「あすを生きる」(日本文教出版)を、教科書として採用する。

各教科	特別活動	総合的な学習の時間	生徒指導	進路指導
各教科の目標達成に努める中で、道徳的実践力の指導に留意する。 体験的な学習や問題解決的学習を重視する。	集団生活を通して集団の一員としての自覚を高め、自主的実践的な活動を通して、人間としての生き方の自覚を深める。	問題を主体的に解決する力、情報収集や発表、討論する力を身につけ、定着させていく。 自分自身を見つめ、互いに認め合い、高め合うとともに、自分なりの価値観を育めるよう支援する。	共感的な人間関係の育成を図るとともに、生徒一人一人が目標をもって将来を展望し、自己実現が図れるよう支援する。	自分の特色や将来の生き方を考え、自分にふさわしい進路を選択するとともに、その実現に向けて努力する。

道徳的実践の場

